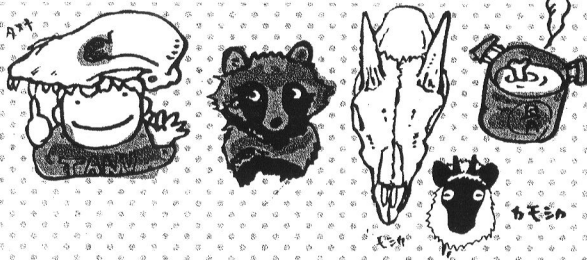


# おいでよ ホネホネ サミット<sup>2011</sup>!

9:30~17:00 入場料 無料  
大阪市立自然史博物館

ただし博物館の展示を見るには入館料  
植物園に入るには入園料が必要

2011年  
10月9日(日)  
10日(祝)



題字「ほねほねボード」前田 団員作

ホネホネ団通信 15号 2012年1月22日発行  
なにわホネホネ団事務局  
〒546-0034  
大阪市東住吉区长居公園 1-23 大阪市立自然史博物館  
TEL: 06-6697-6221 FAX: 06-6697-6225  
wadat@mus-nh.city.osaka.jp

## ホネの髄までホネホネ

2011年10月8~10日にホネホネサミット2011が開催されました。8日は出展者の交流、9、10日は一般者向けの展示やワークショップ、講演会などが行われました。

ホネホネサミットは、博物館や大学などを舞台に、公の財産としてのホネの標本づくりをしている団体や個人、その他さまざまな形でホネの標本づくりに関わっている人たち、そしてホネに興味のある人たちが交流するイベントです。いろいろな団体や個人が、そ

# ホネホネサミット 2011

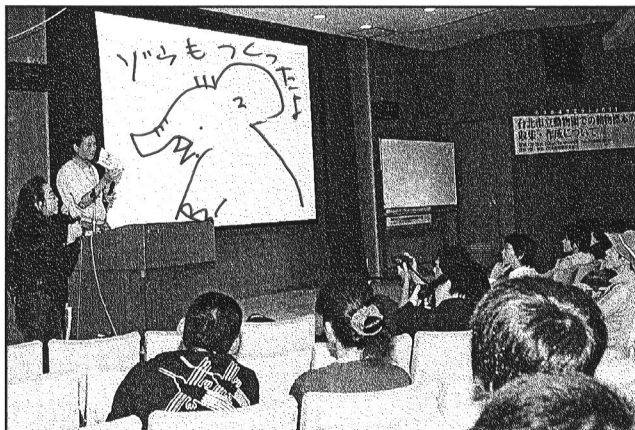
## 特別企画

ホネホネサミット2011講演会の講師  
台北市立動物園 標本士の詹徳川  
(Chan, Te-chuan)氏から頂いた  
お土産を読者プレゼント!

左下の応募用紙を葉書に貼って住所氏名を記入してホネホネ団事務局まで送付して下さい。葉書サイズの紙に貼って、活動日や展示会などのホネホネ団ブースに持ってきてOK! 半年後くらいに抽選します

なにが当たるかわからない  
Chanさんの台湾土産  
読者プレゼント  
応募用紙

右:講演会の様子

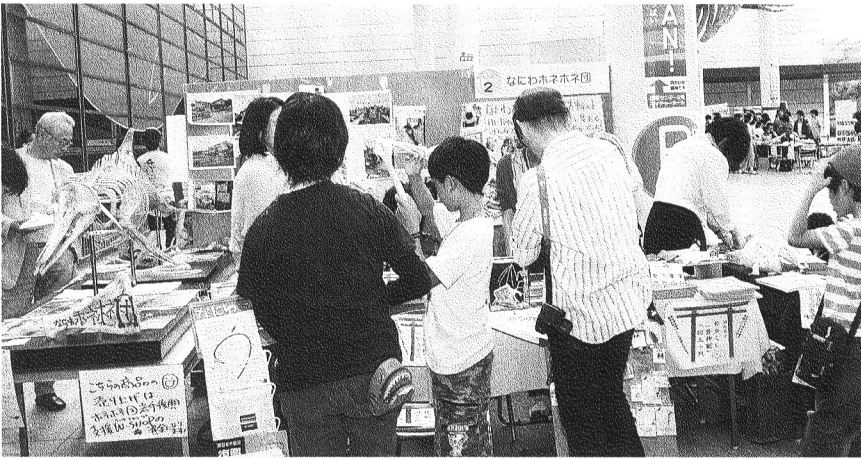


れぞれが作ったホネの標本を展示したり、活動内容を紹介したり、皮むきや骨取り技術を紹介しました。



カワイイ!  
コイイ! のもある。

右：大忙しのホネホネブース



ホネホネサミット2011  
10月9日は、ホネホネサミット

# なになわホネホネ団

この指摘は正しい！  
実はフェスティバルも  
ホネホネをメインに  
同じフェスティバル  
方式という  
やりかたのだ。

という行事があった。よくわからないまま、  
行って見るとフェスティバル(?)のようだ。  
ホネホネ団ブースでは、スタッフがとても多  
かったので人手不足になっていた。そこで私  
も手伝ったが、ずっと店番することになっ

た。人気だったのは、カエルハンコパズルと  
ホネジェンガだ。ずっと子供が集まってい  
た。鳥の缶バッチもとても人気で、予約をし  
ている人もいるくらいだった。朝は人がまば  
らだったが、昼から人が多くて大変だった。

9日は店番で終わってしまったので、10日  
はワークショップに行くつもりで、恐竜の復  
元画に挑戦した。時間がなくて未完成だった  
が、形はうまくいったが皮膚の模様のところ  
で終わってしまった。あとは、他のブース  
の毛皮を触りまくっていた。ゴマファザラシ  
の毛皮が気持ちよかった。私も自分の毛皮が  
欲しいなあと思った。

次回あるのか分からないけど次回こそは、  
もっとじっくりブースを回りたいと思う。



「家族のえと」

久保

## おまけ企画

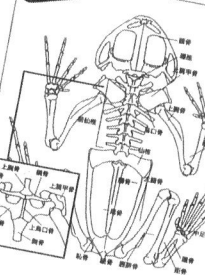
出展者は前日から  
このおまけ  
企画の準備  
をしました。

### ●ホネホネサミット2011出展者向け研修会 カエルのホネづくり

生の骨体から、皮や肉をなるべく取り除き、一分解しないで整形して乾燥させて漂白  
するだけ、という簡単な方法で、カエルの全身骨格標本づくりに挑戦してみよう。  
※今日は時間短縮のため、漂白はできません。乾燥させて固定するための浸透液ができた完了  
となります。カエルの骨格標本づくりに挑戦してみよう。  
※今日は時間短縮のため、漂白はできません。乾燥させて固定するための浸透液ができた完了  
となります。カエルの骨格標本づくりに挑戦してみよう。  
※今日は時間短縮のため、漂白はできません。乾燥させて固定するための浸透液ができた完了  
となります。カエルの骨格標本づくりに挑戦してみよう。

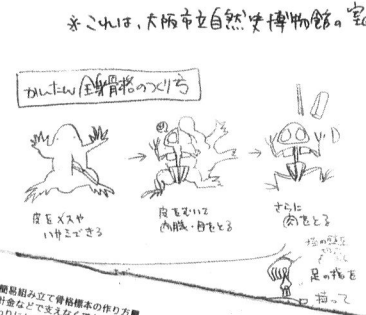
●今日の予定  
16:30-16:45 作業手順の説明(経験者の方から)カエル配布  
16:40-17:50 皮や肉を取り除き、漂白液に入れておく。漂白液はカエルの体から取り出す  
17:50-18:30 漂白液を綺麗に洗い、漂白液を交換する。漂白液はカエルの体から取り出す  
18:30-19:30 水洗。水気を拭き取り、乾燥シートに平付けして終了!

### カエルの体

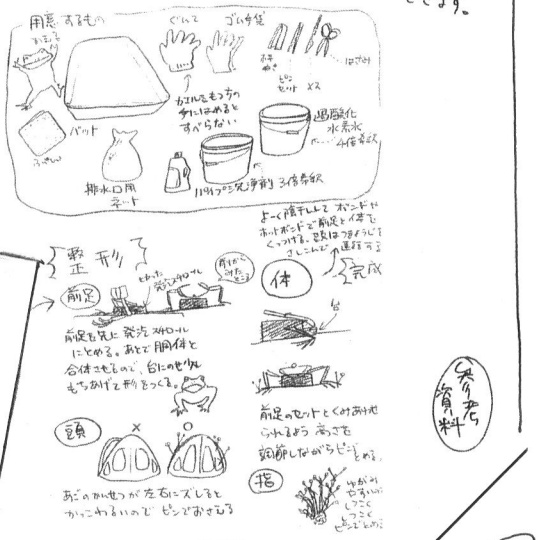


＜スタッフ＞  
西澤真樹子(なになわホネホネ団団長)  
知田 浩(なになわホネホネ団副団長)  
大塚市立自然史博物館(生物学) 菅野 孝典  
なになわホネホネ団のみなさん  
＜おすそ回しの手順＞  
1. カエル 1人1匹  
2. 油断化ホネ水  
3. ナイフとピンセット  
4. 骨が折れるように切る  
5. 骨を綺麗に洗う  
6. 漂白液に入れる  
7. 乾燥シートに平付けする  
8. カエルの骨格標本を完成させる  
9. カエルの骨格標本を完成させる

【注意】この実習で使うオヒキカエルは、環境省の右組自然保護管理事務所により  
有資格者から提供されたものです。消化管の内容物を調査する必要がありません。  
骨格標本を完成させるために乾燥シートに平付けしてください。



【手順】  
1. カエルの骨格標本の作りかた  
2. カエルの骨格標本の作りかた  
3. カエルの骨格標本の作りかた  
4. カエルの骨格標本の作りかた  
5. カエルの骨格標本の作りかた  
6. カエルの骨格標本の作りかた  
7. カエルの骨格標本の作りかた  
8. カエルの骨格標本の作りかた  
9. カエルの骨格標本の作りかた



カエルの  
ホネづくり  
おもしろい  
ホネづくり  
講座



大塚市東住士区  
自然史博物館  
1-23



# SKULL! SKULL! SKULL!

「頭骨」と聞いてどんなイメージが浮かぶだろう。不気味？綺麗？この文章を読まれている方はおおかた後者の回答に近かるうが、どうもこうしたものに対する世間のイメージは決してポジティブとは言えない。でもホラ、そんなことはないでしょう？

頭骨って素敵な造形美を持っているんですよ！と、こうした声を上げたくなるほど頭骨に魅せられたアーティストや研究者が集まって結成したのが、今回私もその一人として参加したユニット、『SKULL! SKULL! SKULL!』である。その主旨はもちろんその名の通り、団体の各人が最良の頭骨を主題に、自分の作品やトークをアピールすることだが、その作品の形式も様々で、イラストだったり、造形や缶バッジだったり、シルバークセサリーだったり…と、実に多様な内容を展開することになった。

さて、私はアーティストではないので研究サイドの一人として自分の持ち場を担当。頭骨（というより頭部全体）フエチにしてさらにこの形態を研究テーマとしている手前、この団体に参加しない手はあるめえ。内容は直球勝負で、個人所蔵の骨格標本をずらっと、しかし居心地のよさそうな一角になるように（なにしてるアーティストとの共演なんだから！）展示したのだが、この標本の選定は

ランダムではなく、脊椎動物の各主要な動物群を一通り、手で持って説明できるサイズの頭骨と全身骨格とを極力1ペアずつ並べることを念頭に置いていた。一応の目玉は、その昔に気合いと根性と愛情で作ったヤツメウナギの頭部骨格標本（この動物は、正確にはいわゆる“SKULL”に当たる頭蓋を持っていない）なのだが、まあこれはある程度の専門知識を持っている方には相対ウケがよかつたにもかかわらず、いまひとつカタチが掴みきれない方も少なくなかつたのが残念。ともあれ、後ほど「さりげなく展示してある骨格がどれも曲者ばかり（意訳）」で面白かつたとブログに書かれているのを発見したこともあって、それはそれで（曲者という意識はなかったのだが）他にないものにできたかな、と満足ではあつた。

ユニット全体としては、最終的に頭骨イラストのトートバッグや、古生物復元缶バッジ、古生物頭骨シルバークセの売れ行きもよく、特に缶バッジに至っては「コティロリンクス」というマイナー生物（調べてみてね）が完売してしまうという奇跡のような展開を見た。それも実際にコティロリンクスの頭骨のレプリカを前に、その魅力を延々と語り続けたT川さんの力なのだろう…。

そうそう、この団体は「頭骨で語る」ことのほかにもう一つルールがあつた。それが「全員スーツ着用」であつて、つまりスタイリッシュにキメた私のスーツ姿もまた見どころの左…ブースのレイアウトもとってもスタイリッシュ

ひとつだったわけだが、さてこちらの感想は  
いかに？

東山ノ





## 木登りヤギ

写真で、あるいはガラス越しに骨を目にする事はある。だが、骨に触る、ましてや手に取ってひっくり返したりする機会

はそうそうない。私自身、ホネホネ団以前に触ったことがあるのは、魚の骨と手羽先がせいぜいだ。手の届かない場所に展示されているべきものであった骨だが、手のひらに乗せてから、身近な、ありふれたものとなった。だからホネサミでブース出すにあたって、ま

ず触ってほしい、と思った。だが、ただ「ご自由にお触り下さい」と札を貼って置いても、物珍しただけで終わってしまう。私の感じて骨の面白さを伝えるには、同じ体験を通して自分自身で発見してもらおうのが一番だ。



ブース出展なんて正真正銘生まれて初めて、何を出そうか思い付かず、ギリギリまで悩んでいた。珍しい骨も恰好いい骨格も、間違いなくもつとすごい人がいる。やる以上は私ならではの中身でない面白くない。とりあえずテーマを三つ決めることにした。1)鳥の骨格を使っての鳥骨クイズ、2)小さな全身骨格3)ほとんどの人が確実に見たこともないだろう耳小柱、4)ワニと子猫のバラバラ頭骨パズル。鳥骨クイズで道行く人を引き込み、全身骨格で感嘆させ、まだついて来られない人には耳小柱でドリビア体験、それでも物

足りないコアな人にはバラバラ頭骨で悪戦苦闘してもらおうという流れ。今にして思うと盛り込みすぎだ。頭骨パズルは話の流れからすると仲間外れなのだが、バラバラのワニ頭骨が実はデタラメに壊れているのではなく一対ずつのパーツであると分かった瞬間の驚き、あつちが合えばこつちが外れる組立の難しさをぜひとも味合ってもらいたく、オマケ要素でひっそり採用。



さて、それぞれの詳細を見ていこう。1)鳥骨パズル骨を見て「これ何の骨？」と聞く人は多い。カラスの骨だと分かるとその時点で理解したような気になってしまう。だが「なぜ」カラスの骨だと判断できるのか。ここを考え始めると、他の骨を見る時にもきつと面白い。鳥の骨格と三種類の骨を並べて同定してもらおう。身近な鳥代表ハシブトガラスの頭骨、子供にも人気のペンギンのフリッパーと骨盤、後頭剣骨がかつちよいいの頭骨と骨盤。ペンギンとウで骨盤を持ち比べるとペンギンの方が重い、カラスの嘴は動かないがウは上嘴が上に動かせる構造になっている、なぜか、などの話をした。

2)小さな全身骨格 頭骨パズルでは部分の骨しか出していない。その骨がどこにどんな形で収まるのかを示すため、是非とも全身骨格が欲しかったので、濱口さんに羽根つきシロ

ハラ、メジロ、カヤネズミの全身骨格をお借りした。なんだか骨つぽいけど小さくてよく見えない、と通りすがった人が見に来る効果もあった。羽根つきのシロハラ、華奢で繊細なメジロには、揃って感嘆の声を上げていた。小さな骨格標本の作り方に興味を持つ人が多かった。

3)耳小柱 前日のカエル全身骨格実習の時に耳小柱をもらって回って「みみせんどろぼう」の仇名を頂いたのに勢いを得て、コレクションを得意げに並べる。盗れたてホヤホヤのオヒキガエル、アカミミガメ、ハシブトにニワトリにハシボソミズナギドリ、そしてタヌキの耳小骨。一つだった耳小柱がなぜ哺乳類では三つの耳小骨になったのか、哺乳類に比べて鳥の聴力が可聴域では劣るが分解能では優れている、爬虫類にはどんな音が聞かえるか。内容は完全に大人向け。熱心に聞く人が多かった。

4)頭骨パズルもとよりバラバラだったワニ頭骨と、大豆のチカラでバラバラにしたネコ頭骨を組立ててみる。本当にくっつけるわけではないのでボンドもテープも無し。さぞや不完全燃焼であつたらう。パズルに挑むほどではない人にも、パイ生地のように薄くて脆いネコの鼻甲介を手にとってもらい、頭骨の鼻穴覗きをオススメした。



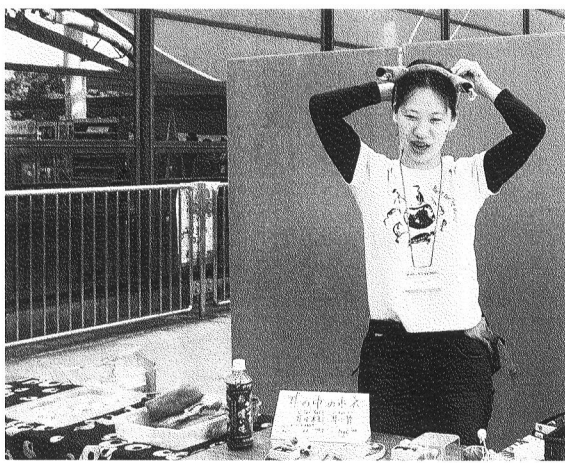
唯一辛かったのは人手不足。4つのコーナーを一人で切り盛りするのが難しいのは当然としても、そのままでは昼食を買うどころか他のブースさえ見られないところだった。

初対面にも関わらず気さくに店番を引き受けてくれた銀細工職人さん、チャンさんの講演に行きたくて死にそうな思いをしていた私を救ってくれた二人の美少女、名古屋からカメの弁当箱を持ってやってきた水草屋さん、京都と兵庫からはるばる来て長時間手伝ってくれた二人の恐竜好きさん、子供にモテモテの蛇使いさんにはどれだけ感謝してもしたりない。



ホネサミの楽しさに勢いを得て、2012年5月12日・13日(土日)に東京で行われる大規模アートイベント、デザイン・フェスタに出展することにした。そもそも骨に興味がない人をどこまで引き込めるか。ドキドキとワクワクがきっかり半分ずつである。

岩佐



右…準備中のヤギ



# 佐藤寿哲

## メインテーマ：『子どもの頭蓋骨のフィジカルアセスメント』

骨のフィジカルアセスメント』

サブテーマ：ヒトを含めた子どもと大人の頭蓋骨の比較

比較したこと：①眼窩の高さ②脳量(BB弾を使った脳頭蓋容量の計測)

…このレポートではテーマについては触れません。一般向けではないし、面白くないので。

### 展示物

- ・ 子どもと大人の頭蓋骨(本州鹿、日本猪、日本猿、ヒト)ヒトは模型です。
- ・ 全身骨格標本(イエネコ、朝鮮イタチ、センダイムシクイ)
- ・ その他骨標本(セグロカモメ、ハシボソ?カラス、トカゲ、アカミミガメ、ひね鶏)
- ・ 毛皮(ウリボウ、ホンドテン、朝鮮イタチ、本州鹿、イエネコ)
- ・ その他(ヤマドリ羽、アオダイショウの抜け殻・人間の胎児の頭蓋骨模型)

「何でも一応やってみよう」という性格の私は、無審査で私でも出展可能と聞き、無謀にも個人参加させていただきました(一応息子も手伝ってくれましたが)。やはり一人というのは相当無理があり、ろくにトイレにも行けず、昼食はその場で何かをかじりながら

…といった状況でした。でも裏を返せば、ひっきりなしに誰かが見学・体験しに足を運んでいただいたわけで、大変うれしく思います。私の骨活動は、別に骨が好きだからではなく、生き物好きなことと、団長本の「おわりに」にもある「こいつがここで生きて死んでいったって事実をちゃんと遺してあげなきゃな」的な思いからの活動です。なので、このサミット出展は、私だけでなく多くの人に自分が拾い集めた動物たちの生死を知ってもらおうチャンスであり、死体といえども身体に傷をつけた動物たちとの約束を果たすことでもありました。2頭の猪の頭骨にある異なる銃創を見てもらい猪がどのように殺されたのかを説明したり、仔猫がカラスに襲われた状況を骨標本で説明したり、なぜ死んでいったのかも含めて説明していくように心がけました。

もう一つ心がけたのは、「なるべく触ってもらおうこと」です。鹿の頭の毛皮をかぶってもらったり、仔猫の毛皮をヨシヨシしてもらったり、猪の牙を抜いて長さを体感してもらったりしました。予想通り子どもにたくさん来てもらったのですが、小鳥の全身骨格など「この標本のタッチはあかんやろー」的な物もお構い無しに、グニグニと指で押さえつけるなど激しい愛情表現で、いくつかの標本は半壊状態になりました。でも修理もできたし、子どもたちにも喜んでもらえたと、よかったです。

アンケートを設置し16名の方から回答いた

できました。小学生3名と18歳以上13名で、美男8名・美女8名でした。おおむね当ブラスについて興味を持ってたと回答いただきました。一番人気はヒト胎児の頭蓋骨でした(医療教育用模型です)。特に女性に大人気でした。次にイエネコ、猪などが続きます。ネコってインパクトがあり、「かわいいぞう」「気味が

### 左：頭骨の数々



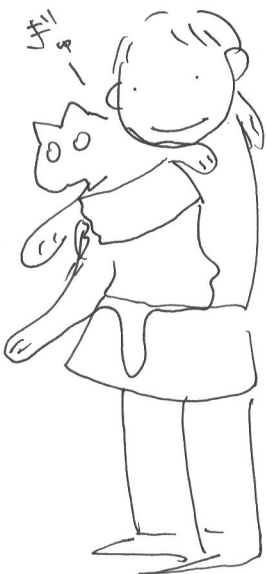
悪い」「そんなん触ったらあかん！」など反応は様々でした。でも、初め気味悪がっていた小学女子が最後には毛皮を抱きしめてくれるのを見て、「ゴミの様に死んでいたコイツを拾って骨と毛皮にして、サミットに連れて来てよかった！」と思いました。

スタッフの皆様には私の知らないところでも、たくさんお世話になっていたことと思います。本当にありがとうございました。他のブース・講演もゆっくり見たかったな。

佐藤



右：ヒトの子どもと胎児の標本模型





ホネホネサミット2011

# 阿久津淳子ブース

阿久津淳子の、ブーすっ！では

ありません。今回のブースのこだわりは、生体の金魚を前面に出して、たくさん見てもらうことでした。自分の作った数少ない金魚の標本、そしてその品種のホネ、こっちを見てあつちを見てもらおうと。しかし、そのことと海洋大の中村玄さんのお預かりものホネに気が行き過ぎて、展示について良いアイデアが無いまま始まり、とてもご迷惑をおかけしてしまいましたこと、団員の山田さんには改めてお詫びしたいと思います。展示することに慣れていないのにもあれこれもとも遊びものを欲張りすぎたことは大きな敗因で、いい失敗例になりました。次回機会がありましたら、改善面ばかりで挑みたいと思います。

阿久津淳子ブースに立ち寄る人でよく関心を持ってくれたのが、金魚の系統図ポスター

でした。かけ合わせや突然変異を表しているよく出来たもので、私も大好きです。人の作為によるものである金魚の醍醐味とも言うのでしょうか。その、魚として無茶した部分をホネで解明できるかと今回の骨格標本作りをやってきたのですが、持ち運びに破壊し、焦って再度くっつけようと展示直前や展示中に作業するも上手くいかずグズグズでした。ごめんなさい。これもまた反省の嵐です。

とにかく今の課題の一つは持ち運びにも耐えうる最終的固定です。あつそういえば、一番ウケたのは手作りガチャガチャかもしれない。阿久津淳子ブースに来たお子さん連れの親御さんは暇つぶしにこれは良い、てな感じで子供にガチャガチャさせていました。それにこのガチャの売り上げを岩手遠征の寄付金に使われますよと言うと、良心の呵責が起ころうでした。いえ、そんなんでなく、みなさま本当にありがたいほど心から応援してくれました。感謝。あー、意外と金魚福笑い(いまだ仮名)も金魚占いつきポケッタテッシュがただでもらえるところがウケたのか、人気があったように思います。いえ、無料テッシュユにがついてきたと言うわけではありません。みなさまワークショップのりで楽しんでくれました。ありがとうございました。

自分の中ではもっとアピールの仕方があったんではないかと反省しているのはホネクッキーです。金魚水族館の向かいに最近オープンしたケーキ屋さんが本格的に焼いてくれたクッキー、やはり「ナマケモノ珈琲店」さんにもホネクッキー売ってたよと、誰かに言われて「えー！」って凹んだことが原因だったのか。完敗です。ホネに熱心な人は中村さんの作ってくれたパネル「家庭で作る魚の骨格標本」をパシパシ写真で撮っていました。

そりゃあそうだわねー。と、とても納得しました。そんなホネホネサミット2011の思いでした。左：本当は金魚水族館にしたかった阿久津淳子ブース

阿久津



不本意だったらしい...

途中で仲間割れとかしました。



## 近大骨組

我々は「近大骨組」として出展

した3人の小さなサークルです（しかも私以外は大学院の試験を控えているので、ブースには私しか常駐していませんでした）。ブース場所の案内を見たときには震えました。だって真向かいにミノルさんのブースがあるのですから。標本師さんの前で稚拙な標本を出すわけにはいきません。稚拙なのは文章だけで充分です。

とはいえ我々3人所蔵の骨格標本に珍獣はありませんし、サンプルが100もあるわけではありません。なにか搦め手で攻めるしかありません。そこで下記の搦め手を使いました。

1、写真：なにわホネホネ団でもポスターセッションの時には使う手段ですね。天王寺動物園で撮ったカバやフィードルの写真などを10枚ほど貼りました。机の横などにも貼って、小さい子供にも見えるようにしたら角度の問題で大人が見えなかったりと、なかなか難しいものです。机の上のスカスカ感ばかりできたようなできてないような。

2、ダンボール看板：金はなくても時間はあるのがプーの良い所。出費0円でダンボールを手に入れてカッターで工作です。とりあえず目立つのが目的ですから、40×60ぐらい

の看板を3つ作りしました。背面の壁に貼りました。

3、謎骨：同定できなかった骨も展示しました。誰かが同定してくればしめたもの、と考えていたのですが、いかんせん人気のないブースだったもので、まず人が来ない、いない、見ないでした。残念。

4、ウロウロ：シカの頭骨持つてウロウロしたり、ミシシピアカミミガメで遊んだりとブースの外にいました。やはり動くものは目を引くようで、普通種でも興味を持ってくれました。ブースの中に人が少ないので出たり入ったりと忙しかったですが：

5、スゴロク：ふふふ、これぞ今回の搦め手の最終兵器！ スゴロク！ ブルーシートにダンボールでスゴロクを作りました。スゴロクは骨格標本を作る手順を示した内容で死体発見から解剖、肉取り、水漬け、完成となっています。もちろんダニに注意や、感染症予防に「刃物で怪我をしないように」などの欄（絵は白衣に手袋の人を描きました）もあります。すると子供が釣れる釣れる！ 最初は「ゴールしたら消しゴムハンコ押せるよ！」としていましたが、途中から消しゴムはんこだけでもいいかとなりました。でも別に場所取っても良かったかも。キョンの頭骨のハンコをおした子には「あっち（京大？）に本物あるから探しておいで！ 変なシカやで」と教えてあげました。やっぱり消しゴムハンコとスゴロクは子供に最高です。

色々卑怯な手を使ったにも関わらず、お客

様は目の前のブースに吸い込まれていきま  
す。何をしようとミノルさんには勝てないの  
です。ですが、収穫がなかったわけでもあり  
ません。どこかの出展者の方がネコの頭骨の  
サイズを測りにきたり、近大OGと会えたり、  
耳にホネを刺したお兄さんがミシシツピを見  
左：けっこう賑わっている

に3度も来て下さったり、どこかの高校の先  
生がWSについて聞かれたりもしました。そ  
うそう、WSの看板も出したんだって！ 検討  
すると言われて以降お返事いただいてません  
が（笑）

山田ニジノ





# あくあびあ芥川

今年もホネホネサミットには

「芥川緑地資料館(あくあびあ芥川)」として  
出展しました。あくあびあでは団長作成の全  
身骨格をはじめ、松下団員の作品もたくさん  
展示しており、骨格標本はあくあびあ常設  
展示の特徴となっています。サミットでは11  
〜12月の企画展「みんなで集めた標本展」の  
ために作成したイノシシの全身骨格を出展し  
ました。実はこの企画展、昨年拾ってきたイ  
ノシシの骨格標本のお披露目が最大の目的な  
んです。というのも、2年前に埋めたイノシ  
シの死体を「ほしいならあげるよ」と言われ、  
団長と二人、掘り返したのですが、案内して  
くれた人たちに拾った死体がいかに重要で、  
どんなにきれいに変身したか、ということを見  
てもらいたかったのです。ということでも、  
企画展の宣伝を含めてホネホネサミットに出  
展しました。



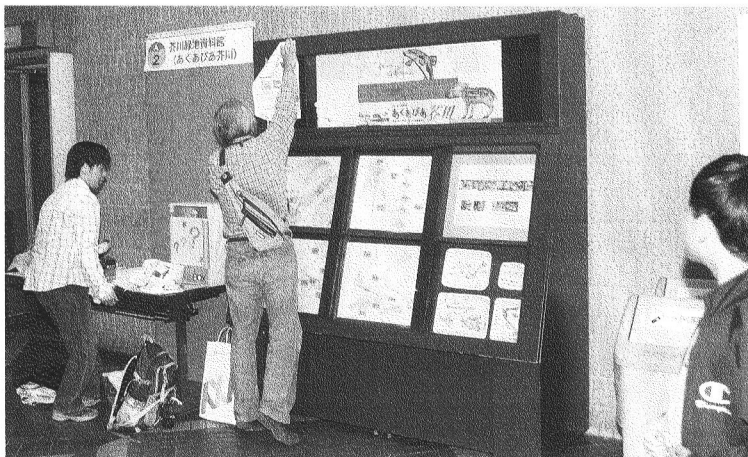
ホネホネサミットは、さすが...というぐら  
いの濃〜い人たちの集まりです。団長曰  
く、「ここでテロが起こったら、日本の脊椎  
動物の標本作製は壊滅」。出展者は様々だ  
けど、せま〜い世界なので知り合い一人挟むと  
全員知り合い。今回一番印象に残ったのは相  
川稔さんの講座で「ミョウバンをつかった皮  
なめしは、年数がたつと皮が枯れ葉のよう  
に粉々になる」というもの。ミョウバンを使う、

と教えられて、ずっとそのとおりにしていた  
ので、自然史でもあくあびあでも皮はこごとく  
ミョウバンと塩でなめています。どうした  
らいいんだ。



いろいろな意味で勉強でき、実り多い3日間  
でした。第3回目もやるんでしょうか...?

高田



右: 設営中のあくあびあ芥川のブース

## 広告

— 好評発売中! —

### 『猫にもできる豚足くん』

乾 著  
2008年刊 12ページ  
簡易製本 価格 300円

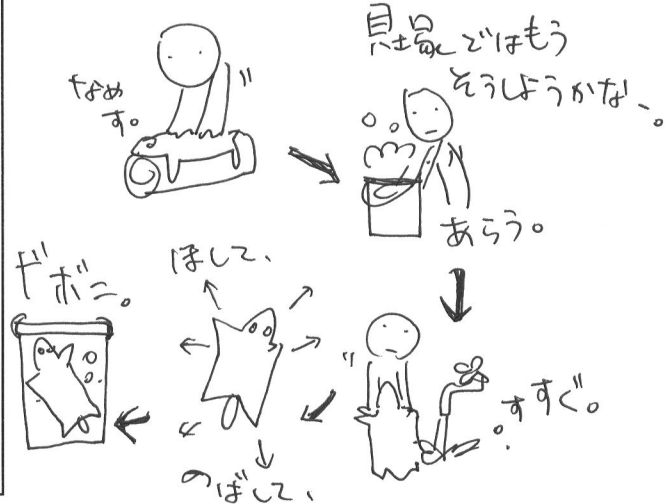
わかりやすい!



かっこいい!

ミョウバンを使わない  
場合は、一定期間  
アルコールにドボン。

で、いい匂いだよ。



塩もミョウバンもつかわないで、殺菌できる。  
カビもころす。





## 家庭で作る！ミニホネ隊

ホネホネ団員の私物を展示するために専用のブースを出しました。集まった

標本は佐竹家の標本ほぼ全部、乾公正さんの鳥獣戯画ウサギと竜田川トリ足、まわる豚足くん、牛田さんのアゴがパクパク出来るリュウキウイノシシの頭骨（大人と子供）とイタチの頭骨、そして植本さんのコウモリとラットでした。展示してみると結構な数で賑やかにりましたが、ブースの位置が本部の横の奥まった場所なので、小さな標本の多いミニホネ隊の展示は遠目には見づらかったかな。逆にちよつと素通りって感じのお客さんよりも、興味津々でやってきて滞在時間の長いお客さんの方が多く、じっくり説明できたのは良かったと思います。



なんとといっても本ブースの目玉は金屏風が目を引く鳥獣戯画のウサギとウシガエル（複製品ですが）でした。2日目はイノ獅子舞も好評でした。調子にのって長いこと遊んでいると腕がつりそうになりますが、実演があった方が面白いだろうと、しばらく乾燥状態で放置していたオオヒキガエルのクリーニングをやってみました。これは一般参加者よりも、むしろ8日の研修を受けた出展者の方に受けが良かったように思います。「家庭で作る」と冠したせいか、標本作製に関する質問をいつもより多く受けました。肉を溶かす

方法、接着材は何を使っているのか、瞬間硬化スプレーって何？などの質問が目立ちました。豚足くんやウズラ本を買いたいという方も多かったので、ホネホネ団ブースの売り上げにも貢献できたかな？



他の団体のブースはどれも力が入ったものばかりで、とても全て紹介しきれませんが、個人的に気になった所をいくつか。福井県博で教えてもらった「ホネ海岸」ぜひ行きたい！冬に行くと良いようです。見たことあるフィギュアが展示しているなと思うたら、お散歩ガエルの原型を作った方でした。自分がガチャガチャで買っているマスコットの原型を見るのは変な感じでした。ホネ塾さんにもいろいろ話を聞いたのですが、やっぱり謎の団体です。トリの羽根つき標本を作るときには、羽根に水をどんどん補給して、脱脂や漂白によるダメージを防ぐとか、トイレのタンクにホネを入れると新鮮な水が毎日供給されるので、曝気槽の働きをして、肉がきれいに溶けるとかすごく勉強になりました。誰かトイレのタンクに標本入れてみませんか？最初は臭いけど、すぐに臭わなくなるそうです。家では絶対に許可が下りません。



私はホネホネ☆発表会も仰せつかったのですが、トップバッターのカモノハシの標本の

解説を聞いてすっかり気おくれしてしまいました。練習不足もあって何度かつかえてしまいました。まあ笑いがとれたから良いか。お子さん方には分かりやすかったようです。子供といえば、思い付きで作った「なにわホネガエルのはんこパズル」が予想を超える人気だったようで驚きです。ハンコセット

佐竹



じゃ足りない！なんとかしなくちゃ。ハードなスケジュールでしたがとても楽しく、あつという間に終わってしまったホネホネサミット。第3回がいまからとても楽しみです！



はいめりつった遠野はとあかみえる山並みがあぶりにみえた。

# 活動報告

## 団長日記：ホネホネ団の3・11と岩手遠征まで

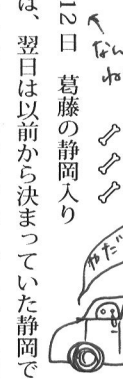
なにわホネホネ団にとっても、日本中の博物館にとっても、2011年はそのあり方を問い直す年になりました。ホネホネ団の黎明期、副団長事務局長と3人でお茶をすすりながらちんまりほそほそとタヌキを剥いていた夜から8年後、岩手に遠征し300人規模のイベントをこんごんまわすことになっているとはいったい誰が想像できたでしょうか。ここでは、3月からのホネホネ団の動きを団長日記でふりかえります。

※この記録は、岩手ワークショップ第1回と第2回の準備記録をもとに再校正したものです。ワークショップの詳しい内容などはネイチャースタディ2012年1月号を参照ください。

3月11日 震災当日  
地震が起きた午後2時頃、貝塚市立自然遊学館という大阪湾沿いにある小さな博物館の事務所でパソコンに向かっていました。ぱっと座った椅子のリクライニングがいつまでもびよんびよんと揺れ続けているような気がして変だなあーと顔を上げると、同じ事務所にいた何人か妙な顔でふらふらしている。しかしその後は防災無線も鳴らず、「地震?」「なんか変な揺れだねー」と気にせず作業を続けていた(日本中の海岸に津波警報出たのにならして)。貝塚市のパソコンはネット



の規制が厳しく、広告のあるサイトや動画のサイトをみるのがほとんどできないか見にくい。個人のメールチェックもできない。事務所にはテレビもなく、普段からラジオもつけない。夕方近くなると他の博物館から「仙台空港が水浸し!」「東京がえらいこと!」というメールが来てなんのことかとは思っていたが、ニュースでものすごい震災が起きているのを知ったときにはもう夜になっていた。東京の両親にやっと電話が通じ無事を確認。仙台の友だちとはまだ連絡が取れなかったが、山形出身のホネ団員から、仙台の市街地はなんとか大丈夫そうと聞いて少し安心する。



3月12日 葛藤の静岡入り  
実は、翌日は以前から決まっていた静岡でのホネホネワークショップの日。ホネホネ団からも何名かお手伝いをお願いしていた。福島原発が制御できなくなっているニュースを耳にしたが、当然中止ではないかと担当さんに連絡を取ったところ、実施の方向で考えているとのこと。こんな状況でみんなを連れて行きたくない。私自身も1歳でも東に移動したくない、と思いつながらのろのろと準備し、車で静岡目指して走り始めた。ラジオからは圧力があがり続けていること、もうぎりぎりの状況ということが流れ続け、どん

ん気が減入る。夕方さしかかったSAで建家吹っ飛び画像を見てまた担当さんに電話。日本最悪の緊急事態で子どもも集めるイベントやるの? でもやるってやだなあ、行きたくないなあ。こんな状況で子どもに科学のことに楽しくなんて伝えられないよ。到着した静岡のホテルで合流したホネホネメンバーとガラガラの居酒屋へ。明日終わったら速攻で帰ろうねと話して就寝。

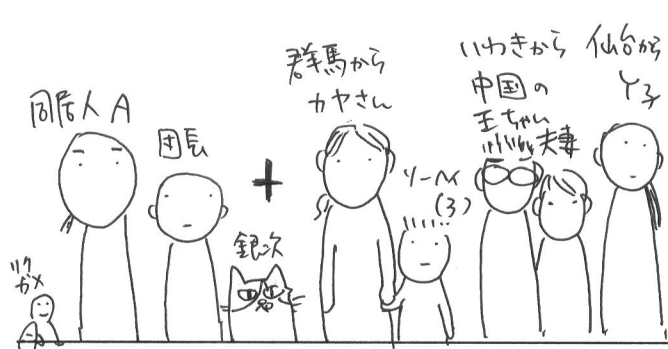
3月13日 風花団員からの相談  
ホテルのフロント前に山と積まれた新聞にひろがる恐ろしい写真と、入れたてのコーヒーにこんがり焼けたパン、釜揚げ桜えび入りオムレツなんかが出てしまう平和なホテルの風景が折り合わなくて頭抱えながら会場へ。会場では静岡で博物館を作ろうとがんばっている団体や、動物園のボランティア、自宅の庭の昆虫を撮影し続けている個人などがブースを出している。ホネホネ団も一部を借りて展示もさせてもらった。静岡ではじめて自然系サークルをあつめたフェスティバルとして、担当さんが成功させたい気持ちもわからなくはない。とりあえず終了まではがんばろうと、心切り替えて子どもワークショップ+講演+交流会までをこなした。講演ではホネホネ団がサークルとして博物館活動を支えている事例を紹介して、こんな連携の仕方

### (前編)



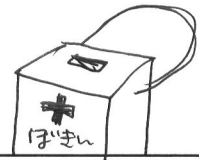
があるんですよ、博物館にも利用者にもメリットがありますよーとか話した。夕方解散し、帰りの車の中で河原風花団員のホネメールリングリストへの投稿を読む。震災に対して何ができるかアイデアが欲しい、募金を集めたい、という内容で、思わず車内で涙。(ホネホネ団で震災についての対応を考えるきっかけになったメールとして、まだこのメールは大事に保存してある)。谷さんや和団事務局長からも投稿があり、「ホネホネ団でも何かしよう」という気持ちが高まった。家に戻ったときにはもうへとへとだった。

あの頃の団長はこんな人



最大で8名が共同生活状態。

い先の



3月16日

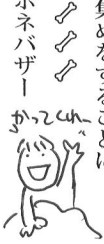


河原風花団員、生徒会の仲間と近鉄奈良駅前募金活動。この短い期間に朝日新聞社を通じての募金ルートも確保して、偉すぎる。出動中にちよつと差し入れにいて先生と和子さんに挨拶。



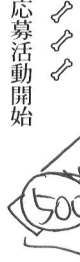
3月下旬 ホネホネ団の方針1

いままで標本やホネがらみのことしか流れていなかったMLに、ホネホネ団ではどんなことができるだろう、という震災と支援の話題が飛び交う。で、博物館のサークルとして被災地の博物館を応援したいという意見が出る。13日にすばやくHPでお見舞いと支援表明をした西日本自然史系博物館ネットワークと歩調を合わせ、団内でも博物館への支援を目的とした義援金集めをすることに。



4月24日 第一回ホネバザー

定例活動日に向けて物品を集め、ホネバザー開始(この日から毎月、計6回)。バザーと言ってもホネ系や生き物系が多く普通に楽しく盛り上がる。芸大系クリエイターズや藤田団員、革屋店長の武村団員が団員のツポにはまる革製品を作って出品。古い切手やハガキ集めも開始。切手やハガキは換金するつもりだったが、生物系切手は商品としてすぐ売れた。



4月12日 助成金応募活動開始

お世話になっている「花王・コミュニケーション

ミュージアム・プログラム」より文化による

災害支援助成の案内が届く。既に助成を受けたことのある団体は、助成金の運営を担っている市民社会創造ファンドの事務局で迅速な審査をして、すぐ支援できるようにしますというもの。開催会場や期日が決まっていないと応募ができにくかったこの当時の他の助成金に比べてとても親切な条件。他にも緩そうなお条件のザ・ボディショップジャパンと企業メセナ協議会に申請書を書く。他、JSTの科学コミュニケーション連携推進事業草の根型プログラムは開催日の確定が必要で、その欄だけ開けて作成。

4月20日 第一回打ち合わせ

友の会を運営する大阪自然史センターと博物館の職員有志で第一回打ち合わせ。花王の助成金に関して、ホネホネ団は現地での子どもWSの開催、西日本自然史系ネットは標本レスキューと2本立てで応募することに。花王の助成が縁で知り合った岩手の子育て支援サークル「あそびma・senka」西里さんに岩手での子どもワークショップ開催を打診。



4月26日 西里さんより共催のWSをいただく。

被災地の子どもたちへの支援に直接結びつけるため、「沿岸部での出前WS開催」の方針が決まる。

5月10日 博物館スタッフ第2回打ち合わせ。日程、できそうなWS内容検討。

5月12日 佐久間さん陸前高田入り。現地の様子

様子を調査。

5月15日 石田さんが鳥羽源蔵の貝遊び資料発掘、WS内容に組み込む案。

5月17日 博物館スタッフ第3回打ち合わせ。

6月2日 博物館スタッフ第4回打ち合わせ。ホネホネ団からセンターにWSスタッフの派遣依頼を出すことで、職員を出張扱いにしてもらえるよう相談。

6月6日 東京でのシンポジウム「緊急集会：被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて」学術コミュニティは何をすべきか? (主催：統合生物学委員会自然史・古生物学分科会)に団長と楯団員出席。シンポの冒頭で、失われた人命と標本に対して黙

祷。うちからは学芸員の佐久間さんがパネルで出た。岩手県山田町に藻類標本を寄贈した直後に施設が震災に遭い、8万点が損失した事例報告が元東邦大学の吉崎誠先生からあり、お話を聞いているのがつらかった。山田町がWS開催地の候補に挙がっていたので、シンポ終了後吉崎先生に「近くまで行くので、何かお手伝いできませんか」と声をかけてみる。しばらくのあいだは「もう遅い」と言われていたが、最後に教育委員会の担当さんと、町内のこの人を訪ねたらいいという方の連絡先を教えてください。でも、吉崎先生にはこれがお会いした最初で最後になってしまった。

6月17日 花王、助成金採扱



ホネ団に岩手行き参加者の呼びかけ、下旬メンバー確定。

7月8月、あくあびあ芥川で中村団員が東北へのメッセージカードをつくる子どもWSを関連企画として開催。作品を岩手に持っていくことに。

7月24日 博物館友の会による復興支援イベント

ナウマンホールで鳥羽源蔵の「昔の岩手の貝遊びコーナー」を開き、遊び方を練習したり、改善点などを検討した。貝ぼつくりを使うホッキ貝の殻は、北海道の食品加工会社マルゼン食品の社長さんから提供いただいた(岩手用にはあらためて購入)。源蔵先生の貝遊び資料を石田さんがわかりやすい言葉遣いになおし、小さい冊子を作る。



7月30日 準備作業1回目

佐竹団員、山田漆団員、樽野顧問などでアモンナイト石膏レプリカ作成、30名の石膏でおよそ4個。パラロイドで強化処理。はりえ用色紙の仕分け、化石スタンプ作成、会場の飾り作り、バザー物品と売上整理。アンモレプリカ彩色試作。お持ち帰り袋作成。絹糸切り。ストラップの検討。布インクの注文。集まった未使用ハガキの交換。



8月28日 準備作業2回目

石膏アンモ増産、第一回アンモ化石レプリカ用ウエス切り、絵の具用牛乳パック切り、葉書にスタンプ+切手貼り付け、化石スタンプ作成。鳥羽源蔵の貝遊び冊子350部作成。

バッグとはり絵の見本作成。  
 9月6日 チラシとポスターの印刷、発送。  
 9月10日 岩手行きスタック顔合わせミーティング。WSの進行、内容、スケジュールなど確認。  
 9月11日 準備作業3回目。染谷団員一家などたくさんのお助けの人が外来研究室の廊下まであふれて作業。バッグへ注意書きプリント挟み込み、スタンプ取手に絵柄のシール貼り。16日の遠野市WSでつかうはりえグッズ100人分+スタック名札+掲示物は手持ちで行くよう別の荷物に分ける。夕方大騒ぎしながら荷物の梱包発送(ヤマト便)。21時に受付終了の営業所まで、博物館のゴミ用外台車に荷物を満載にしてニジ団員と住宅街をさまよい走り。ニジ団員なぜか下駄で私トイレ



いろいろなキラキラのまねはし  
 色紙のしわい

あそびにきてね!  
 ●子どもワークショップ●  
 『きょうは一日、化石であそぼ!』  
 ●9月17日(土) 13:00-17:00  
 会場: 下閉伊郡山田町:おぐら山 テント  
 ●9月18日(日) 10:00-16:30  
 会場: 大船渡市立博物館: 多目的ホール  
 ※材料がなくなりだい終了するプログラムもあります

アンモナイト化石ストラップ  
 ほんものアンモナイトからとった型にべたべた色ぬり。ヒモをつけたら...キミだけの化石ストラップのできあがり!

はり化石はりえカード  
 日本ではじめてはっけんされた恐竜化石・岩泉町のモシリユウ。ことし発見されたばかりの久慈のヨクリユウ、そしてアンモナイト。色紙をちぎってはりつけて、化石カードをかんせいさそう。うらはは、化石豆ちしきつき。

空飛ぶ?! 化石絵はがき  
 おもだちや、だいじなひとに、おたよりを出してみたい? はがきに化石スタンプをポン! 色をぬって絵をかいて、きょうりゅうポストにいれてみよう。大阪から空を飛んではがきがとどくよ。じぶんに出してみよう。  
 (おくりたいひとのじゅうしょをメモしてくるといいかも!)

おたのしみはまだあるよ!  
 ●ママのリラックコーナー ●おんなの子の相談コーナー  
 ●えほんコーナー (プレゼントつき☆) ●でっかいきょうりゅうはりえコーナー ●きねんさつえいコーナー など

主催: なにわホネホネ団 & あそび ma・senka  
 後援: 山田町、山田町教育委員会、大船渡市立博物館  
 協力: 岩手県立博物館、芥川緑地資料館(あくあひあ芥川)、マルゼン食品株式会社、岸和田市学級・グループ連絡会、大船渡市立自然史博物館、特定非営利活動法人大阪自然史センター

このイベントは、「花王・コミュニティミュージアム・プログラム2011」の助成を受けて行われます。

はり・はり  
 か せき  
 化石はりえ  
 がつ 9月16日(金) 時間 3:30~4:30  
 にち 人数 先着50人  
 きょうりゅう、よくりゅう、アンモナイト...  
 むかしの生きものって、  
 どんな色をしていたのかな?  
 いろいろがみをつかって、キミだけの化石カードをつくってみよう。  
 会場: 白岩児童館、青笹児童館  
 ●お問い合わせ: 白岩児童館 (0198-62-2806)、青笹児童館 ( )  
 ※大人のへ: 若手県は古生代から新生代まで、あらゆる時代の地層から化石が産出することで有名です。そうした「じつは化石がすごい若手県」を、ワークショップを通じて子どもたちに楽しみながら知ってもらえたら、と思っています。化石カードは、若手で産出した化石(モシリユウ、ヨクリユウ、アンモナイトの3種類)を扱います。裏面に豆知識と、産地の情報などを載せています。子どもたちの持ち帰ったカードを見ながら、若手の化石について話してみてください。



遠野市バージョン。

サンダル。走りにくすぎ、汗かきすぎ。

9月14日 当日の共通チケット作成。アンモナイトカード作成。大型掲示物の打ち出し。ニジがものすごくがんばってくれる。

9月15日 出発直前の準備作業日。たぐさんの団員が一気に集まってくれ、ホッキ貝の貝柱除去と洗浄、ボール盤での穴あけは一瞬で終わった。ありがたい。銀行で旅費の入出金などしている間に人生初の駐禁とられて大シヨック。



### ■本番

9月16日(土) 快晴

会場：遠野市内の児童館2館

参加者：約130名(すべて子ども)

スタッフ：白岩児童館6名+児童館職員、青笹児童館5名+児童館職員

7時半伊丹空港に集合。各方面へのお土産を買う。10時花巻空港着、レンタカー2台で遠野市に移動。途中、めがね橋の道の駅で昼食。民宿に荷物を入れてから、二手に分かれて児童館へ。14時~15時準備。15時半~17時それぞれワークシヨップ。この日の内容は化石はりえのみ。白岩児童館77人、青笹児童館55人。東京からボランティア1名合流。18時半から宿で共通チケットのヒモ通し内職。入浴。スーパーで買出し、20時半夕飯兼ミーティング。



9月17日(土) 曇り

会場：山田町八幡町役場前 “おぐら山” 仮設大テント

参加者：約280名(子ども128、大人153)

スタッフ：24名

5時ころ地震。岩手内陸部震度4、かなり長く揺れた。6時半起床部屋で朝食。7時東京からのボランティア3名合流。7時45分出發し遠野経由で山田町へ。途中のローソンで毎日新聞を買い、中の「希望新聞」にワークシヨップのお知らせが載っているのを確認。9時半到着。役場で西里さんたちと合流、おぐら山仮設大テント前で役場の方3名も合流、自己紹介ののち名札をつけて設営開始。山田町の小学生が数名覗きにきて、そのまま設営に加わる。不足したガムテープなどの買い出しを近くのスーパーで。12時ころからあそび ma・senkaさんの用意した弁当で昼食。13時の開始前にすでに受付前に列ができていた。13時オープン、受付開始。怒濤のように人が来る。開催中は幸いなことに曇り。17時終了、片付け。ここでようやく雨が降り始める。senkaさん、ホネホネ団、生涯学習課それぞれ感想を分かち合い。来場者約280名にみんなで喜ぶ。大きいはりえの一枚にスタッフで寄せ書きし、開催に尽力くださった町の職員さんたちにプレゼント。18時30分ころ食事係の先発東京隊が先発、宿泊地の住田町へ移動。残り19時少し前山田町出發。はじめての場所のため距離がよめず到着はギリギリに。途中で住田基地に電話を入れ謝る。ふだんはミーティングがあるため、20時までに到着しないといけなかったからだが、この日はボランティアが多く全体ミー



ティングはなかったようだ。近くの風呂が21時でしまるので、お風呂に入る組は石田さんの運転で大急ぎで出發。山道の先にある施設で、霧がひどく苦勞。なんとか15分程度で大急ぎで入浴し、もどつて夕食。風呂をあきらめた組は先に食事。連休のためボランティアが体育館に満杯で、16名中5名は車の中で寝た。

9月18日(日) 快晴!ほんとは台風だったそうなんだけど...

会場：大船渡市立博物館

参加者：約320名(子ども170、大人150)

スタッフ：開始~14時半まで24名、14時半~終了まで16名

5時半起床。宿泊地が混み合っているため、大船渡市立博物館まで移動してから朝食にした。コンビニで買った東海新報に開催案内と送迎バスの時刻表が載っているのを確認。噂の名勝地碇石海岸のはしっこに降りてみる。港は地盤が下がったため地面すれすれまで水が来るように土嚢が積んであった。8時15分到着、博物館の玄関前で堂々と食事。食事しながら打ち合わせ。この日だけはスタッフが進んで抜けたりと動きがあるので、進行表を作りコンビニでコピーし配った。仙台市から omnh・m1つながりで深瀬さん到着。大船渡市立博物館の勝本さん、笠島さんも合流。9時、館長さん、職員さんご挨拶して設営。10時の開始前に駐車場は満車、受付前に長蛇の列。受付を2人体制にする。博物館までの一本道

にも車が渋山いたらしい。10時、並んでいた子どもたちと秒読みをして開始。10時50分ころ、ますます混雑してきたので受付を3人体制にする。午前中だけで200名以上が訪れ、会場の多目的ホールは人でごった返し、気温の高さも手伝ってかなり暑かった。

11時半から整理券100枚を配り、あそび ma・senkaさんたちによる「ホネホネランチ」提供。遊びにきた子どもたちがお昼を食べられるように、と、地元のお弁当屋さんに注文したおむすびと骨つきソーセージをソテーして出されていた。12時半を過ぎると人手も落ちてきてきたので、スタッフ各自注文いただいたお弁当で昼食。岩手県立博物館の鈴木まほろさんが来てくださる。

14時半になるとかなりゆつたりした雰囲気。大阪に帰る組が8名抜け、ハイエースで花巻空港に向かう。16時40分に受付を閉めた。化石バックの材料がなくなり5名ほどが作れなかったが、ハガキコーナーのハガキを使い、スタンプだけでも押しもらえるように見本をいくつか作ったところそれなりに楽しんで帰られたもよう。17時撤収。深瀬さん、勝本さん、笠島さん、東京組の4名帰られる。いくつかの荷物はハイエースにも乗らなかつたので、博物館から着払いで大阪に送っていただくようお願いし、いくつかは西里さんに後日引き取って送っていただくようお願いした。石田さん、西澤、山田ニジ、小牧さん4名で種山高原のコテージへ。入浴後、あそび ma・senkaさん側4名、山田町の小成さん交えて打ち上げ。震災直後の状況などを

3時間ほど話し込む。実際に体験談を聞くのははじめて。今とても大事な話を聞いているという緊張感と、ここまで話してもらえくらしい、近くに來られたことを実感。西里さんたち、イベントで同じくらい疲れているはずなのにたくさんのごちそうを用意してください。感動。イカのわた焼きが目のさめるような美味しさ。

9月19日(月) 雨



盛岡に移動。あそび ma・senka事務所に大阪に送る荷物を預け、途中で昼食、岩手県立博物館へ。常設展示の見学のあと、鈴木まほろさんに収蔵庫を案内していただく。東北ならではのコウモリ標本に血圧が上がる。その後石田さんは被災した貝標本の状況調査。ほか3名は洗浄済みの貝の袋詰め。まほろさんと標本の話などしながら夕食。台風が帰りの飛行機を直撃しそうなため、一日早く帰ることを検討。盛岡市内のホテル泊。朝方目が覚めてから、この数日間の事をいろいろ考える。沿岸部を車で走っていると、ほんの少しの高低差でもうまったくの更地のようになってしまうところと、何も変わっていない景色が広がっていて、そのわずかな差に衝撃を受けた。半年経っても、まだ車がささったままの田んぼや、瓦礫が押し込まれた釜石の商店街のようすなど、うわ～という言葉以外何を言ったらいいのかわからない。私はもとの景色を知らないから、はじめに見たすごい状況にただぼんやりとするしかできなかったのだけれど、夜になってあたり

が真っ暗になり雨が降って来て、なんとか復旧した信号に並んでいると、カーナビが暗闇に向かって「モスバーガーが目印です」「300m先、エネオスを右です」と案内してくれる。もちろん、モスバーガーも、エネオスも、その先にも、目印になる建物は残っていない。みんな口にしてはなかったけど、夜の道を走るのはやはりしんどいと怖かった。浸水したところは人がいないから、明かりもなく、本当に真っ暗になる。何ヶ月も経ったと思っていたけれど本当にまだ「これから」なんだ、と思う。

9月20日(火) 雨



朝の大荒れの天気予報を見て、今日中に帰ることを決定。部屋で朝食、8時ホテル出発。陸前高田市立博物館の仮収蔵施設である生田(おいで)小学校へ。熊谷賢さんにお会いして、3月11日の状況を聞かせていただく。その後、燻蒸のための民具の引っ越し作業をお手伝い。昼食後、石田さんは鳥羽源蔵標本調査。3人引っ越し作業続き。途中、救出した資料の中から千葉蘭児先生のコレクション台帳が見つかり、熊谷さんうれしそうだったのが印象的。14時半に生田小学校出発、新花巻駅へ。17時レンタカーを返し、駅で解散。レンタカーは若干の返金があった。帰路の航空券は、翌日21日の朝にJALのHPで遅延・欠航が決定してからキャンセル(全額払い戻しにできた)。

9月21日(水)



西里さん、大船渡市立博物館、山田町に事後のご挨拶まわりと、大船渡市立博物館まで残りの荷物を取りにいってくださる。9月30日「パレスチナ子どものキャンペーン」事務局から予算の見積もりOKの連絡。第2回の遠征決定。日程確保。メンバー募集かける。琵琶湖方面から手が挙がる。ありがたいことだ。10月2日 岩手ワークシヨップ打ち上げ。2時間半の反省会と、スライドショーを見ながら東北の幸を味わう。みんなで幸せな気分になり、ちよつと泣ける。



(後編につづく)

■第1回目まとめ、反省や感想、第2回に向けて

●初日の遠野市児童館でのワークシヨップは、規模も適当で、やることも単純だったため、はじめてワークシヨップをするスタッフにとつて良い予行練習になった。子どもたちも喜んでくれ、各自に自信がつき、翌日からモチベーションが上がった。被災地を目にする前に、前向きで余裕のある精神状態を作ることができた。

●ワークシヨップをした日じゅうに大阪帰る設定には無理があった(とはいえ、飛行機を予約した時には開催地も決まっていなかったため仕方なかったかも)。次は月曜帰りで、岩手を乗りこむ時間も必要。

●岩手県は思った以上に広く、内陸から沿岸部への移動が大変だった。宿舎はできるだけ活動場所の近くにとるべき。

●住田基地は経験としてはおもしろく、無料で泊まれるのもよかったが、消灯があるため、翌日へつなぐためのふりかえり(ミーティング)の時間が取れなかった。

●住田基地はお風呂もないため、1日じゅう土の上で子どもとの相手をした身にはきつかった人も。日中の活動がハードな分、宿舎はゆったりできる場所を確保した方がよい。

●17日のふりかえりは、18日の朝の大船渡市立博物館への移動の車内でフォロー。同じプログラムを担当するスタッフ同士がまとまって乗れるよう配車を工夫した。

●食事を準備してくれた東京のサポートチームとあそび ma・senkaさんのおかげで、食事のことをいっさい気にせずすみ、たいへんありがたかった。

●山田町でも、大船渡市でも、参加者の期待度の高さがすごかった。また、ひさしぶりに子どもと楽しむための場所に來られたという満足感が伝わってきた。求められている活動だった、と安堵するとともに、遊ぶどころではなかったこの半年の状況を思わずにはいられなかった。

●17日は、山田町のお祭りだったため、町中がお祭りムードになっていて、雰囲気がいよよかったのかもしれない。お祭りの衣装のまま遊びにきてくれた子どもたちもいた。

だんちよう

# たくさんカンパ、ありがとうございました!!

## ■子どもワークショップ

### 「きょうは一日、化石であそぼ！」イベント概要

第1回：2011年9月16日（金）～18日（日）

16日会場 遠野市 白岩児童館、青笹児童館 130名

17日会場 山田町 役場前 おぐら山仮設テント 280名

18日会場 大船渡市 大船渡市立博物館 320名

3日間の参加者合計：約730人(子ども430人、大人300人)

スタッフ：〈大阪自然史センター〉西澤、五月女、中村〈なになわホネホネ団〉阿久津、小牧、河原和子、河原風花、谷、山田虹太郎、岩佐〈大阪自然史博物館〉石田学芸員、釋さん〈あそび ma・senka〉西里さんほか5名〈山田町役場〉生涯学習課伊藤さん、小成さん、山内さんの3名(17日)〈大船渡市立博物館〉金野館長さん、工藤学芸員ほか設営/撤収に3名(18日)〈当日ボランティア〉元児童館職員や保育士の小川さん・茅根さん、雑用係として西澤さん、岩手出身の高橋さんの4名(16-18日)、災害支援で岩手に出向中の大阪府職員・勝本さん、笠島さん2名(18日)、omnh-mlに参加している宮城県仙台市の深瀬さん(18日)

第2回：2011年11月5日（金）～6日（日）

11月5日（土）13:00-17:00

会場：陸前高田市 竹駒地区コミュニティーセンター

11月6日（日）13:00-16:00

会場：大槌町 中央公民館

2日間の参加者合計：約310人(内訳カウントはしていない)

スタッフ：〈大阪自然史センター〉西澤真樹子、五月女草子、高田みちよ、〈なになわホネホネ団〉阿久津淳子、河原和子、梅村奈緒子、谷陽子、山田虹太郎、浜口美幸、〈滋賀県立琵琶湖博物館〉金尾滋史さん、〈滋賀県立平和祈念館〉北村美香さん、〈岩手県立博物館〉鈴木まほろさん、〈陸前高田市立博物館+海と海のミュージアム〉熊谷賢さん、熊谷龍之介くん(5日)、〈大槌町で子どもの場所づくりをすすめるNPO法人パレスチナ子どものキャンペーンから〉小川さん、■さん、◆さん、◆さん4名(18日)、〈当日ボランティア〉小川雅子さん、西澤雅子さん2名(5～6日)

## ■広報



・遠野市は児童館のみの開催なのでチラシは作らなかった。PDFで作成したポスターをメールで送り、開催館と隣接する小学校に掲示。

・twitter、mixi、facebookなどでイベントお知らせを拡散。個人ブログなどでも宣伝。

・岩手県のHP、復興支援イベント情報サイトに掲載。山田町観光協会のブログに書き込み。特に岩手県の公聴広報課の方の反応がすばやく、30分もしないうちにHPに情報が掲載されたのには驚いた。

・せんだい・みやぎNPOセンター、いわて連携復興センター

関係のML、大阪市立自然史博物館のMLなどにメール。

・岩手日報など新聞社4社に開催お知らせメールとFAX。

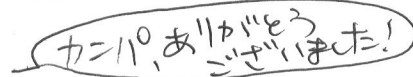
・なになわホネホネ団を、岩手県に派遣された大阪府職員が中心となって作っているネットワーク「援隊なになわ」に登録し、府職員の勝本さんを通して岩手県のHPなどで告知。

・なになわホネホネ団HPのトップページでWSの宣伝。詳細が決まってからは開催チラシをPDFでダウンロードできるようにした。作業は橘団員。

・第1回はチラシ3000枚作成。9/10頃教育委員会を通じて小学校、幼稚園に配布(大船渡市2000枚、山田町1500枚)。公共施設でポスターの掲示。チラシ500枚は陸前高田市を中心に西里さんたちが配布してくださった。

・第2回はチラシの配布に人手がかかると負担ではという鈴木まほろさんからのアドバイスを受け、こちらで児童生徒数にあわせて各学校・学年に仕分けをし、郵送で直接学校へ送ることにした。教育委員会の後援がとれた時点で送付状をつけて郵便、レターパックで発送。大槌町はパレスチナ子どものキャンペーンに送り直接配布していただいた。教育委員会への後援もお願いした。

## ■会計



第1回：収入766,764円：花王助成金400,000円

カンパ297,090円(30個人+3団体)

ホネホネ団バザー売上金63,674円

その他5,000円

支出598,463円

残金168,301円

第2回：収入913,501円：パレスチナ子どものキャンペーンより641,237円

カンパ88,963円(10個人)

ホネホネ団バザー売上金25,108円

前回繰越金168,301円

支出915,669円

残金▲2,168円

おんたごかんぱした。

## ■後援、協力団体など



○後援：山田町、山田町教育委員会、大船渡市立博物館、大槌町教育委員会、陸前高田市教育委員会

○協力：大阪市立自然史博物館、特定非営利活動法人大阪自然史センター、岩手県立博物館、陸前高田市立博物館、マルゼン食品株式会社、ジャパンプラットフォーム、芥川緑地資料館(あくあびあ芥川)、岸和田市学級・グループ連絡会、PTA旭ボランティアの会おはなしボランティア部、社団法人子ども情報センター、小田隆(古生物復元画家/成安造形大学)、徳川広和(古生物造形)、びわたん琵琶湖博物館有志一同、滋賀県博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会



すきなTシャツ  
くれました。

# 次回は宮城県だよー。

「三度の飯も博物館  
とかいふはす。

# 活動報告

## 秘密結社「鳥剥団」

とりむき団



▲ 羊角くるみ  
考え中

NPO法人バードレスキューのメーリングリストで「生駒の森の工作館で鳥の死体が冷凍庫にたまっている。最近オオタカを受け入れたので冷凍庫が満載。仮剥製を作ってほしい」という内容のメールが流れました。ホネホネ団で遠征したら面白い!と思ったのですが、冷凍庫が満載という割には鳥が少なく、10羽程度。ホネホネ団に呼びかけてたくさんの方に声をかけさせて

いただきました。そういう訳で「秘密結社」です。

剥いた鳥

矢田部団員：シロハラ・ウグイス・カワセミ

藤田団員：アオジ

浜口団員：オオルリ

古屋団員：キビタキ

角田団員：シロハラ

村濱理事長：メボソムシクイ

高田：オオタカ

高田

です。



当日は森の工作館の実習室で作業しました。隣ではドングリなどを使った教室をやっていたようで、子どもの声が絶えませんがその隣の部屋で、手を血まみれにしながら

ホネホネの  
活動日以外に  
ゆい鳥の  
修業をけい方  
大募集!  
条件。すぐに鳥か  
おけ子人  
・おはべりしながら  
手を動かすのが  
好きな人

ホネホネ団の公式ウェブサイトができました!



click!



- 主なコンテンツ
- ホネホネ団とは
  - 入団・見学について
  - ホネホネ団通信バックナンバー
  - ホネホネパブリッシング入口
  - 死体に出会ったら
  - 団員の個人ページ紹介
  - 関連グッズ紹介



ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/naniwahone/index.html>



# ほね本紹介

## 「ヤモリの指から不思議なテープ」

著者：石田 秀輝【監修】  
松田 素子 江口 絵理【文】  
西澤 真樹子【絵】  
出版社：アリス館（2011/12/25）  
ISBN：9784752005513

この本は自然に学んだすごい技術を書いています。ヤモリはなぜかべや天井を歩き回れるのか、カタツムリはなぜいつもきれいなのか。そういう生き物の不思議な技術を自然に学び、新しい物を作っていきます。



ぼくがすごいと思ったのは二つあって、まず一つ目はヤモリテープです。ヤモリは指にうねがあつて、そのうねでかべや天井を歩き回ります。ヤモリが生きていないとくっつかないのだと思っていたけれど死んでいてもヤモリはくっつきます。それをしようめいしたのは、アメリカ人のケラー・オータムさんです。死んだヤモリの指を一本だけかべにすいちよくにたてました。なんとおちなかつたのです。これでヤモリの足のうらに秘密があることがしょうめいされました。そして、ヤモリに学んだテクノロジで作られているのがヤモリテープです。粘着剤を使わないテープ、つまりヤモリの足のように折れにくいナノサ

イズ（注1）の毛がみつしり生えた何度でも使えるテープを作りました。結果はザンネン。ガラス板におもちやをくつつけられたけれども二、三回しかたえられませんでした。でも、ロボットなどを作る研究をしています。



二つ目は蚊です。蚊に針でさされてもいたくありません。でも、注しや針をさされると、とてもいたいです。それはつう点といって人がいたみをかかるところがあるからです。蚊の針は25マイクロ（注2）なのでつう点にあらず、いたくありません。でも注

しや針は、900マイクロ（注1）なので、たくさんつう点にあたり、いたみをかかれます。重いとうよう病の人は毎日注しやするのでたいへんです。そこで、蚊の針をもとに作ったのがマイクロ針です。なんと50マイクロしかありません。普通の針は900マイクロ（注1）なのでマイクロ針はふつうの針にすっぽり入ります。そして、とうよう病のかん者さんのために開発されているのがうで時計型採血+投薬マシンです。マイクロ針を使い、自動的に採血、投薬する機械です。

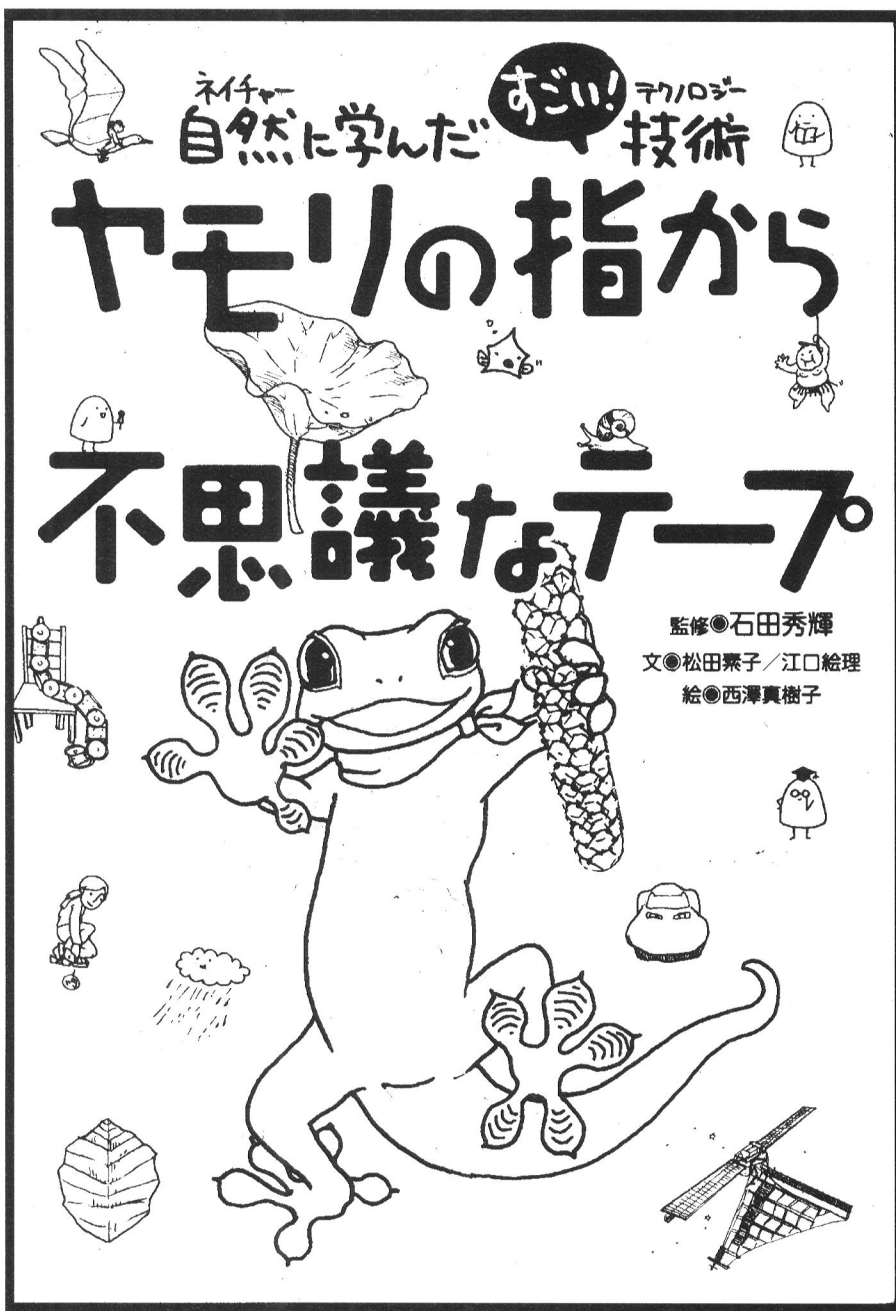


ぼくがこの本を読んで思ったのはイラストが多く、わかりやすいので、子どもから大人まで読めます。だから、ぼくはこの本をおすすめします。

佐竹



（注1）ナノサイズ（ナノ（nm）1層の10億分の1層。それより小さいのがピコ（pm））  
（注2）マイクロ（μm）1層の100万分の1層。



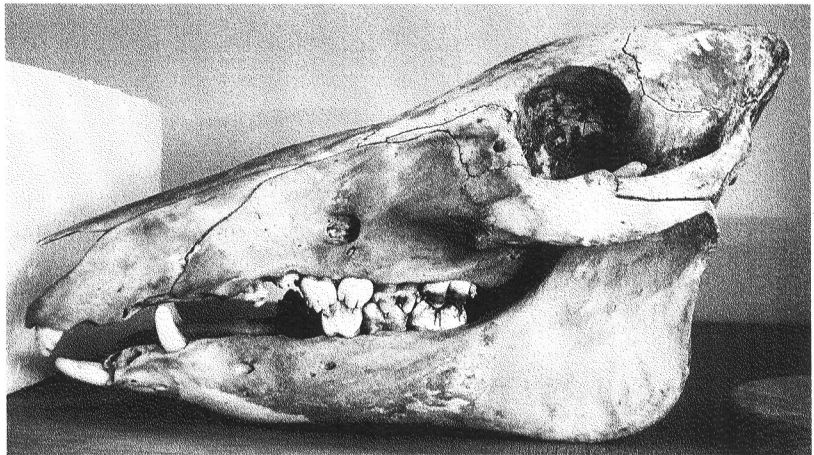
# 私物 標本

ホネホネ団には私物の標本を所有している方が多数いると思われます。拾ったホネや、組み立てたりもらったホネ、ホネにする予定の死体など。さまざまな私物標本も紹介していきたいと思います。

牛田と申します。ニジくんやフナコシくんと同じ近畿大学の農学部出身で、彼らとは別の団体でホネと関わっていました。この場を借りて、その団体での私のホネの思い出をご紹介したいと思います。



近大にあります「里山調査局・生態調査班」は、山の中のキャンパス周辺にどんな生き物が生息しているか、定期的に調査してキャンパスの環境をモニターする目的で活動している学生の団体です。そこで仲良くなった先生・学生が、2010年3月に西表島へ採集旅行に行きました。その成果はwebで「近畿大学 八重山」と検索していただければ、PDFでご覧いただけます。その調査の拠点になった民宿は、引率の先生の馴染みの宿で、こちらの生き物好きも承知してくれていました。そんなおばちゃんに先生が「コイツ、ホネが好きなんだけど、何かない？」と何気なく聞いてくださったんです。そりゃ無茶な注文だ(笑)と思うっていたら、「ちょっと待ってて

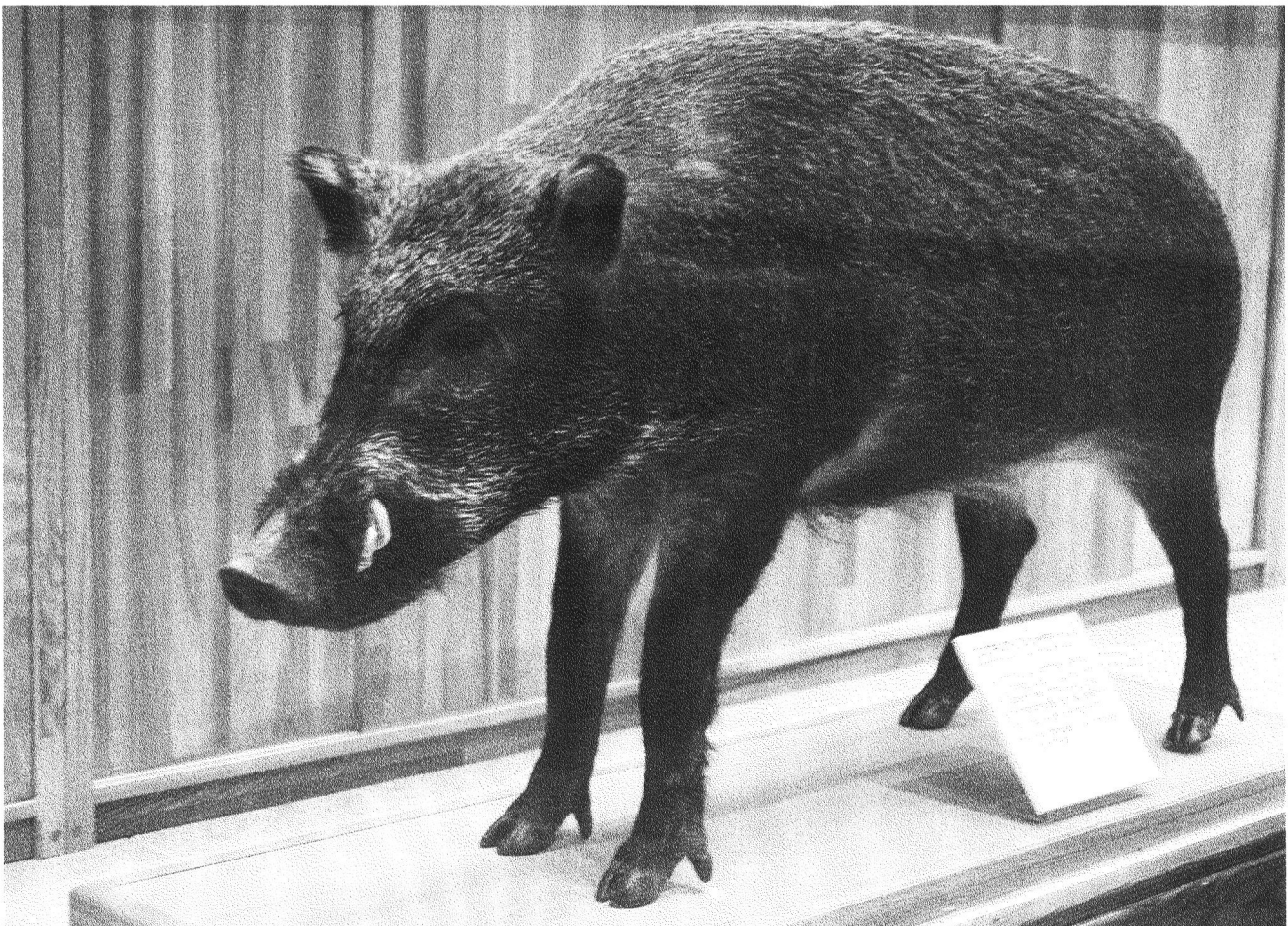


左：リュウキュウイノシシの頭骨

ねー、猟師やつてる知り合いに電話してみろさー」と言うやいなや「イノシシの骨を持つてる。山の中に置いてあるから、取りに来るなら案内する」との返事を取り付けてくれました。おばちゃんに大感謝!!おばちゃんいわく「日ごろのご近所付き合いの賜物さー」とのこと。大事なんやなあ…



おばちゃんに猟師のおじさんの家まで案内してもらいました。おじさんいわく、西表島のイノシシは9月から翌年の2月が猟期だそうです。猟師は1シーズンに30頭の罠を仕



左：リュウキュウイノシシ剥製 西表野生生物保護センターにて



上：獵師のおじさんとジャングル

掛けることが認められ、それぞれに自分のポイントを決めて捕るそうです。イノシシの獣道にくりり罾をかけ、定期的にポイントを巡回します。生きた状態で罾にかかったのを発見できれば、これに止めを刺し、肉やキバを売ります。ほとんど地元では消費されず、本州の料亭に向け売りに出され、京都の料亭なんかに出回るのだとか。島の食卓ではホルモン（ナカミという）が食べられるくらい。死んでしまった状態で見つかったものは、精肉としての商品価値がないため、キバだけ採って罾にかかったまま放置するんだそうです。「今から案内するのは、1ヶ月前から放置してるところ」とおじさん。こういう生活もあるんだなー、とひとり感心。

は亜熱帯のジャングルが広がります。西表島は標高の低いところにはマングローブ林が点在し、いたるところに水路がありますので、長靴は必須。すねまで水に浸かりながら、道とも知れぬ道をおじさんの先導の下に進みます。道中、道端になにかある。カメがチョココンとおりました。見間違えうわけもない、この姿はセマルハコガメやないか!!ちよつと興奮気味の私におじさんは「そりゃカメくらいいる」と、なんともドライ。天然記念物やのに!!



おじさんはタバコをふかしながら、いろいろ語ってくれました。「セマルハコガメなんかも死体を食べに来る。あいつらのアゴの力でたまに骨が割れたりするんだ。」「この森は、素人は絶対に迷う。磁石があてにならないこともあるし、標高の低いところへ歩けば里に下りれるというわけでもない。道を覚えるしかない。」「ヤマネコにはついで会えない。この間もテレビカメラマンが来て、3ヶ月ねばったのにちよつとも見

れなかったと聞く。向こうがこつちに会いたがらないんだから仕方ない。」  
そんなこんなので拾った骨を民宿で洗い、口をカパカパできるように関節を仕込んだのがこの品です。『猪舞い』というカッコイイ異名を頂きまして、ミニホネ団の中に加えていただけ、光栄の至りです。長くなりました。これにて失礼いたします。  
牛田

活動の成果  
2011年9~12月  
なにわホネホネ団

9月10日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室  
担当：団長、副団長、事務局長  
参加者数：43名

(内、見学者14名 ↓新人団5名)  
内容：カワウ1体、インソビヨドリ1体、ハシボソガラス1体、ハシブトガラス1体、キツネ1体、タヌキ5体の皮剥き。腐ったタヌキ1体、ネコ1体の処理。スナメリ1体のホネ洗ひ。ニワトリ2体の皮剥き・肉取り。ニホンジカのホネの組み立て。いろんなホネのカリカリ。

備考：入団試験多くて、ほぼタヌキ祭り。

10月29日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室  
担当：団長、副団長、事務局長  
参加者数：19名

(内、見学者4名 ↓新人団2名)  
内容：ドバト1体、セキセイインコ1体、シロハラ2体、キビタキ1体、ハシボソガラス1体、ハシブトガラス1体、1体、ネコ1体

の皮剥き。洗ったホネの袋入れ。腐ったマダラシロハラミスナギドリ?1体、クマタカ1体の処理。  
備考：団長以下、多くの団員が岩手遠征の準備をしていたので、実習室は静か。久しぶりに西表鳥類調査隊に新隊員。

11月6日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室  
担当：事務局長  
参加者数：29名

(内、見学者12名 ↓新人団2名)  
内容：ハシボソミスナギドリ10体、タヌキ2体の皮剥き。ハシボソミスナギドリ4体、ハイロミスナギドリ2体の水漬け。ネコ2体、イヌ1体、タヌキ1体、イタチ1体のホネのカリカリ。  
備考：ミスナギドリの日。団長以下、岩手遠征に行ってる人が多かったので参加者少なめ。

12月24日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室  
担当：団長、副団長、事務局長  
参加者数：22名

(内、見学者4名 ↓新人団なし)  
内容：ハシボソガラス4体、キジ1体、オナガガモ1体、タヌキ2体、ヌートリア1体、スナドリネコ1体の皮剥き。ヒミズ1体の処理。ポニーの皮なめし、肉取り。  
備考：年末恒例ホネスマス初日。

12月25日  
場所：大阪市立自然史博物館 実習室  
担当：団長、副団長、事務局長  
参加者数：43名

(内、見学者11名 ↓新人団2名)  
内容：ハシブトガラス1体、オオミスナギドリ1体、ハイタカ1体、シロハラ2体、ニワトリ1体、タヌキ3体の皮剥き。ライオン1体、スナドリネコ1体、ネコ1体、タヌキ3体、アナグマ1体、シカ2体、イノシシ1体、ミニブタ1体の皮なめし。  
備考：年末恒例ホネスマス2日目。



上：ホネホネクリスマス会のような



左..みんなで鳥剥き



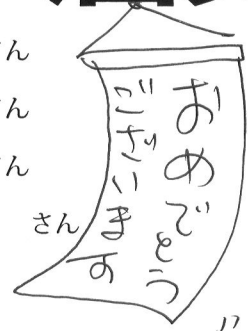
左..入団試験中

2011年9月～2011年12月に入団試験に合格した方々です。

# 新入団員紹介

- 団員 No.196 塩崎 さん
- 団員 No.197 本城 さん
- 団員 No.198 八木 さん
- 団員 No.199 田中 さん
- 団員 No.200 柳谷 さん
- 団員 No.201 齋藤 さん

- 団員 No.202 橋川 さん
- 団員 No.203 村島 さん
- 団員 No.204 鎌田 さん
- 団員 No.205 佐々木 さん
- 団員 No.206 片山さん



**お名前：** 塩崎

こんにちは。  
解剖好きの会社員です。  
解剖は化力類が専門ですが  
犬でも猫でも魚でも何でも好きです。  
どうぞよろしくお願いします。

**お名前：** 本城

一年程前に、飼っていたウサギが死に、その時  
にホネホネ団の方にお世話になりました。  
一年経った今、ウサギは命・毛皮と私の動物  
顔で私の部屋に鎮座しています。

普段は、音響技師・歯科技工士・歯科医  
師見習いなどの各種形態で  
生活しています。

皆様、以後よろしくお願いします。

**お名前：** 八木

はじめまして。  
カラスの骨格や筋肉が  
矢張りたくて飛びこんだ者です。  
予想以上に勉強になり楽しく  
つわつわしています。  
宜しくお願いします。

**お名前：** 田中

こんにちは。

農芸高校で  
毎日牛の世話をします。  
カエル、犬が好きです。  
よろしくお願いします。

**お名前：** 柳谷

はじめまして。  
いつもは高校で牛の勉強をしています。  
だいたい哺乳類と恐竜、鯨が  
好きです。

↑  
哺乳類ですわ

よろしくお願いします!

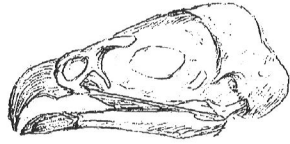
**お名前：** 齋藤

神奈川県出身で獣医をしています。6月から  
徳島に引越したので、あこがれのなかにわ  
ホネホネ団に入団させていたたきました。  
解剖が好きなので今日はたいへん充実感  
があります。ありがとうございます。

好きな動物は霊長類です。いつの日か  
オランウータンとヤマトウサギが夢です。  
どうぞよろしくお願いします。

お名前： 橋川

奈良県出身で大阪芸大で絵と勉強して  
いると見せかけて ↓みたいなものばかり  
描いています。よろしくお願ひします。



お名前： <sup>むら</sup>村島

大阪府枚方市在住の村島 です。  
タヌキをむかせてもらいました！  
また、  
動物とがの 色んなおもしろい話  
を聞かせてもらいたいです。  
よろしくおねがいします。

お名前： <sup>かま</sup>鎌田

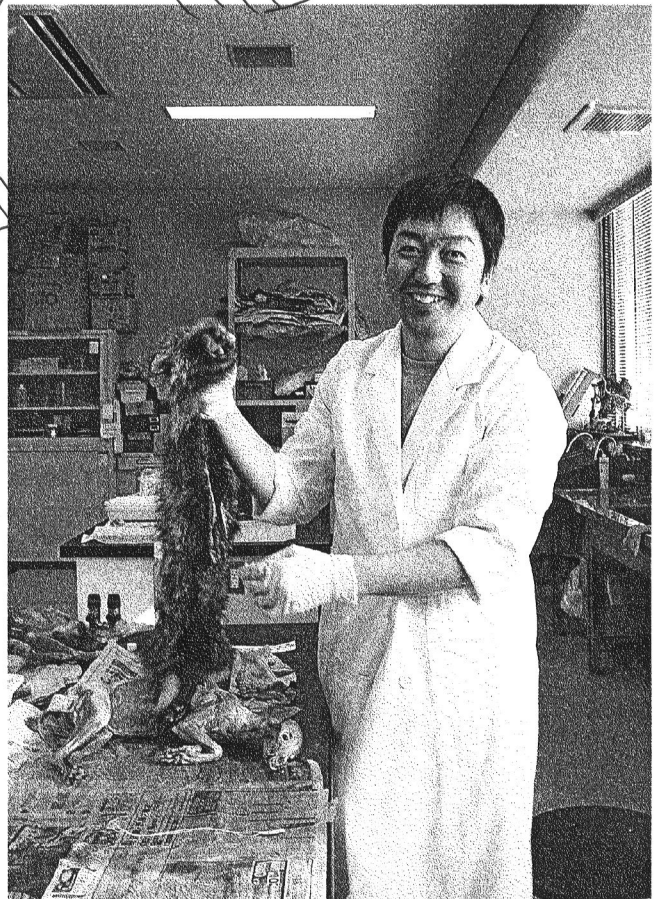
大阪から来ました。  
合格できてよかったです。  
好きな動物は、全てです。  
骨について、生物について、とても  
興味があります。どうぞよろしくお願ひ  
します。🦴😊

お名前： 佐々木

クリスマス入団できました。  
生き物全般に好きなので、  
いろいろ勉強できるのが  
楽しみです。

お名前： Necro

なんとか合格できました。  
私は大阪で造形作家をしています。  
ここで得たものを今後の作家活動で  
活かしていきたいと思っております。  
どうぞよろしくお願ひいたします。



左：見事合格！

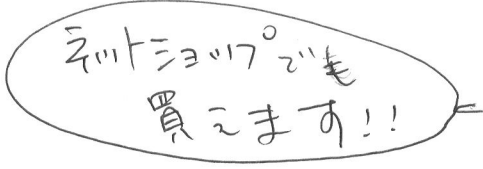
### なにわホネホネ団からのお願い

**死**体は重要な標本です。ぜひ回収して博物館まで届けてください。届けるときにはビニール袋で3重ぐらいにくるんでください。直接持ち込むほか、冷凍の宅配便も利用できます。着払いでも結構です。その際、内容は「標本」「サンプル」とお書き下さい。

送ったり、持ち込んだりするときには、ホネホネ団まで連絡をください。標本の採集日、採集場所（地図のコピーに印でOK）および採集者の名前を書いてメモを同封することをお忘れなく！

### お問い合わせ先

大阪市立自然史博物館  
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp>  
 動物研究室 和田学芸員  
[wadat@mus-nh.city.osaka.jp](mailto:wadat@mus-nh.city.osaka.jp)



### — 好評発売中! —

## 『獣の標本作成ガイド 解剖編』

～道ばたから収蔵庫まで～

団長 西澤真樹子 著

2005年刊 37ページ

簡易製本 価格 250円



ただいま  
 残部5  
 作らな  
 しゃ～。

### 編集後記

しめ・きり(縮(め)切り)

取り扱いを打ち切ること。また、その時日。それより前に物事を終了させなければならぬ期日を指すのが本来の意であるが、縮切りをスタートラインと考える者も多い。縮切りまでの長さは人によって異なり、一般に若ければ若いほど早く、老獪になるほどに伸びてゆき、稀にそれが全く訪れない境地に到ることもある。縮切りに追われる様を「8月31日の小学生」などと表すこともあるが、そのような小学生は既に過去のものであり、多くの場合は過去に小学生であった者が若かりし日々を懐かしんでこのような行為に耽つているのが実情である。「原稿提出の」「受付は4月末でーにする」

なにわホネ辞典(太字は編集子)



久しぶりにS・キングの「ミザリー」を読み返しました。主人公の小説家に対するヒロインの献身的な愛情に改めて感動しました。ファンから編集者へと変貌する彼女の姿は、編集者とは如何にあるべきかを考えさせられました。あまりに感動したので映画も見返しました。アカデミー主演女優賞を受賞したヒロイン役のキャシー・ベイツの演技は素晴らしく、厳しい中にも時折見せる微笑みが好印象でした。ホネ通に関係無いようで関係有りそうな編集後記ですが、特にホネ通との関係は無いので、その点、誤解の無いように。

### 記事募集

ホネホネ団通信では、常に原稿を募集しています。原稿用紙半分程度の短いものから超大作まで幅広く受け付けています。手書きでもパソコンでもOK、イラストや写真もありです。投稿方法は電子メール、博物館へ郵送したり持っていく、活動日に手渡しなどです。送料や交通費は自己負担でお願いします。内容はホネに関する全般ですが、例えば：活動報告・活動日にこんな作業をした、ホネ団の活動でどこかに行った、ホネを見た、死体やホネを拾った、入団試験を受けたなど、何かしたら記事を書いてください。私物標本・個人で色々拾ったり組み立てたりしている方も多いと思います。拾ったホネ、組み立てたホネ、組立中のホネ、ホネにする予定の死体など、何か持っていたら写真とエピソードを寄せてください。

本紹介・ホネに関する本を紹介してください。読書感想文の宿題が出たら、ホネに関する本にして、ホネホネ団通信にも送ろう！

他にも編集から色々記事を依頼しますので皆様よろしくお願いたします。

こ了承ください

作成の手間を省くために原稿の校正を編集が勝手にしています。大幅変更は投稿者に確認しますが、内容が変わらない程度であれば通知しないことがあります。

ホネホネ団通信編集 佐竹

[gcd03100@nifty.ne.jp](mailto:gcd03100@nifty.ne.jp)

